

第五回歴史分科会世界史公開 夏期講座報告

外語短大附属高校 石橋 功

第五回を迎えた世界史推進委員会主催の公開夏期講座が下記のように開かれた。本年は「辺境からの世界史」というテーマで、外語短大を会場に、受験で世界史を使う外語短大附属高校、栄光学園、鎌倉女学院の三年生を対象とした。一〇時〜一二時の生徒対象の授業の後、午後は授業について生徒の授業アンケートをもとに教員が研究会を持ち、互いの授業向上にはかるといふ毎年のスタイルを踏襲し、活発な議論が展開された。本年は大阪大学から桃木至朗教授をお迎えしての授業という新しい試みにも挑戦した。授業後の生徒の質問には次の日に回答する形式をとった。

第一日 八月二十五日（金）

講 師 大島弘尚（栄光学園高） ラテンアメリカ史

石橋 功（外語短大附属）アフリカ史

参加生徒 外語短大附属三八人 栄光学園八人 鎌倉女学院五人

参加教員 十五人

近代世界システムの中心的存在のラテンアメリカが辺境かという当然の疑問が教員からあった。このことは後のどの地域にもいえており、ヨーロッパと中国中心の世界史の世界史の歴史観を根本から変えていく必要に迫られていることを再認識させられた。

第二日 八月二十八日（月）

講 師 杉山 登（逗子開成中・高）モンゴル・中央アジア史

参加生徒 外語短大附属三八人 栄光学園七人

鎌倉女学院八人

参加教員 十二人

受験対応授業としてのモデル的な授業であった。余談もテンポが良く一つの完成形であろう。ただ、教科書と資料集を見ればわかる内容でつまらなかつたという感想を記した生徒がいた。よく勉強している生徒は授業に対しての要求が違うということであろう。

第三日 八月二十九日（火）

講 師 桃木至朗（大阪大学）東南アジア史

参加生徒 外語短大附属四十五人 栄光学園八人

鎌倉女学院九人

参加教員 二十四人

自己紹介と東南アジアをどうとらえるかという導入部を英語で始めた桃木教授の授業はさすがに東南アジア史の第一人者。パワーポイントの効果的な利用とそのテクニクは一見値する。パワーポイントの授業があたりまえの大学の実力差を見せつけた。教室もぎっしり埋まり、報道関係も取材に見えるなど関心の高さを示していた。

第四日 八月三十日（水）

講 師 早川英昭（大船高）朝鮮史

参加生徒 外語短大附属三十八人 栄光学園七人

鎌倉女学院七人

参加教員 十四人

韓国人気テレビ番組を導入に使い、自ら、北朝鮮旅行の体験をまじえた講義は生徒の好奇心をおおいに満足させるものであった。

追記 授業の内容をお伝えできるように桃木教授の講義のレジュメ

を掲載させていただく。次年度も継続して行う予定である。是非、今年度以上の生徒および教員の参加をお願いしたい。